

第3次中期事業計画 (2021～2024年度)

富士石油株式会社



Fuji Oil Company, Ltd. (TSE:5017)





第3次中期事業計画 (2021～2024年度)



■ 事業環境の認識

- 世界経済の回復が期待される一方、中国・インド・中東を中心に最新鋭の大型製油所の新增設が計画され、厳しい競争環境に。
- 2050年カーボンニュートラルに向けた動きとして、電気自動車の普及やバイオ燃料、合成燃料、水素等への燃料転換の結果、中長期的には石油需要の一定程度が喪失。

■ 2050年に向けた長期的な経営の方向性

- ・ 袖ヶ浦製油所は、エネルギーの安定供給の使命を果たし続けるための重要な価値創造拠点として在り続ける。
- ・ 低炭素・循環型社会への貢献は、企業としての社会的責務かつ当社の未来のための最重要経営課題であると捉え、低炭素化した石油及びカーボンニュートラルなエネルギーを供給する企業となる。

第三次中期事業計画 基本方針



基本方針	重点課題	具体的な取り組み
石油精製事業の 更なる基盤強化	稼働信頼性の 維持・強化	<ul style="list-style-type: none">● 高経年設備の集中検査● ドローンによる点検やIoT、AI等のデジタル技術導入、他
	コスト競争力の強化、競 争優位の確立	<ul style="list-style-type: none">● 精製コストの削減、エネルギー効率の改善● 原料調達を含む生産最適化● 高付加価値製品増産に向けた設備改良● 総経費の合理化、業務効率化、他
脱炭素社会に向けた 取組強化	製油所の徹底した 環境負荷低減	<ul style="list-style-type: none">● 省エネ活動・投資の一層深化● アンモニアのボイラー燃料使用検討、他
	脱炭素ビジネスの追求	<ul style="list-style-type: none">● 次世代バイオ燃料の導入やCO2フリー水素、合成燃料などの追求



■ 前提条件(2024年度)

原油価格 (ドバイ原油)	為替レート
60ドル／バレル	105円／ドル

■ 原油処理・製品販売

	2021年度 (見通し)	2024年度 (計画)
原油処理量 (千KL)	6,250	7,297
製品販売量 (千KL)	6,552	7,880

利益計画

(単位:億円)

	2021年度 (見通し)	2024年度 (計画)	増減
営業利益 (除在庫影響)	27 (△5)	100 (100)	73 (105)
経常利益 (除在庫影響)	19 (△13)	85 (85)	66 (98)
当期純利益	17	75	58

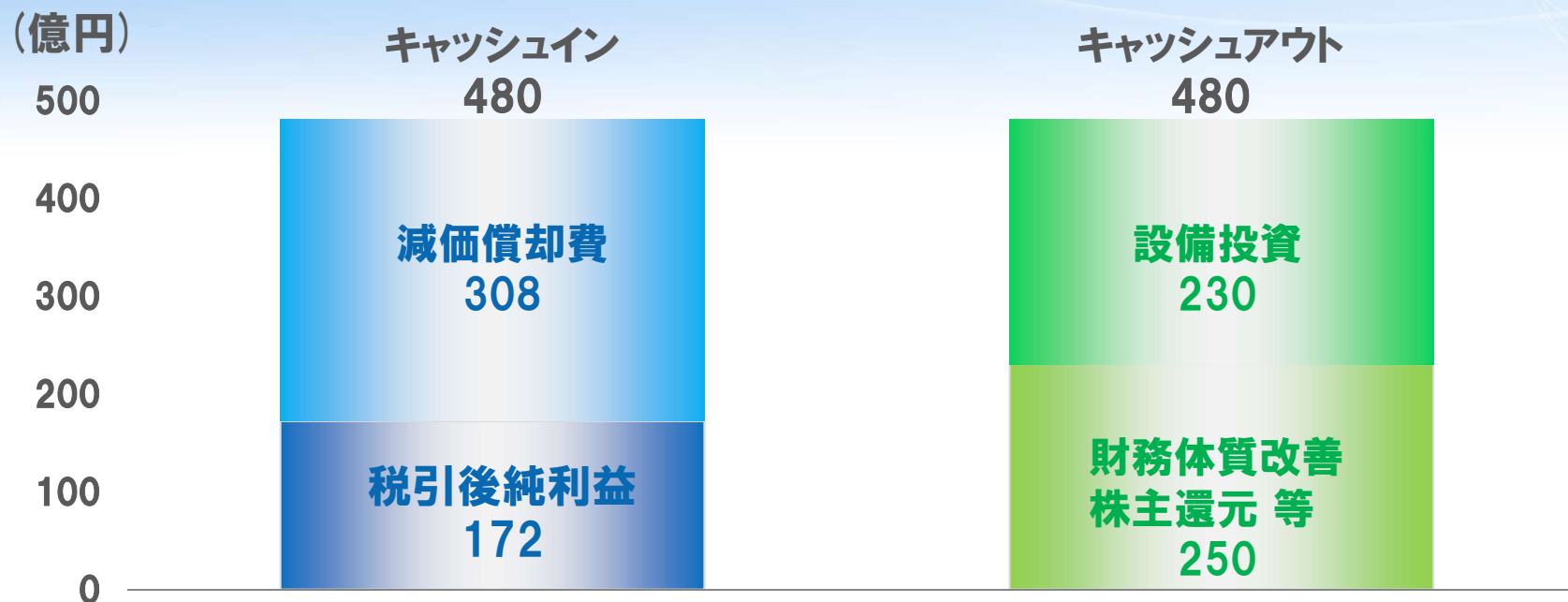
※2024年度営業利益、経常利益には在庫影響を含まない。

財務目標

	2024年度目標
ROE (自己資本利益率)	10%以上
ネットD/Eレシオ (負債資本比率)	1.5倍以下※

※原油価格の変動に伴う短期資金の増減影響修正後

キャッシュフロー（2021～2024年度累計）



▶ 安定的なキャッシュ創出力の維持

▶ 競争力強化・環境負荷低減に向けた投資の実行

稼働信頼性向上に向けた高経年化設備の更新工事、省エネ投資等

▶ フリーキャッシュフローの最適活用

業績・資金バランスを考慮しつつ、財務体質の改善・強化、株主還元の拡充、更なる競争力強化のための追加設備投資等に充当

2025年度環境目標

製油所における省エネルギー量15,000kL-coe※1/年の達成

※1 Crude Oil Equivalent(原油換算)

2030年に向けた目指す水準

自社事業で発生する年間CO₂排出量を2014年度と比較して20%以上削減

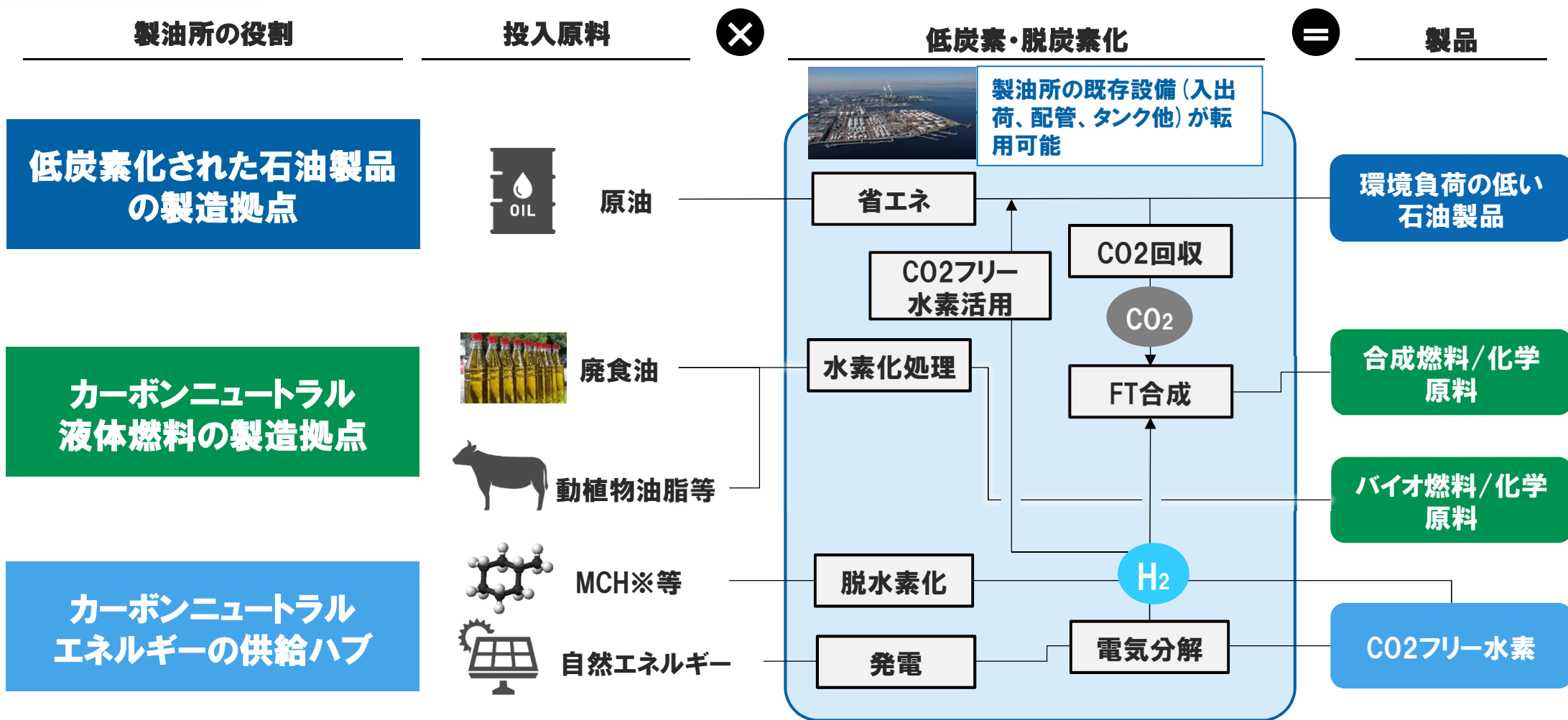


2050年に向けた目指す水準※2

- ・ 自社事業で排出するCO₂をネットゼロとする
- ・ 供給するエネルギーの低炭素化等を図ることで、社会全体のカーボンニュートラル実現に貢献

※2 各要素技術のイノベーションの進展による技術確立と経済性の両立を前提とする。

【参考】2050年に向けた製油所の活用例



※メチルシクロヘキサンと呼ばれるトルエンに水素を付加させて作る液体であり、海外からの水素キャリア(運搬媒体)として期待されている。